

# 2011年度 基本方針

—いま会員相互のまなざしにより新しいNPOをめざそう—

## 1・東日本大震災と子どもたち

死者・行方不明者 3 万人あまりの未曾有の被害を出した大震災から 2 ヶ月が過ぎました。今回、本協会の総会の開会にあつてまずは被災者の皆様に心よりお見舞い申し上げるとともに一刻もはやく日常生活が取り戻せることを願います。

東北各県の普及は徐々に進んでいるようですが、逆に事態は相当に深刻でもあります。一つには、原発問題の行方も分からぬままに、人々の不安と焦りが高まっています。そして他方では、多くの市民が政治の不安定性に対して憤りを高めており、私たちの日常生活も決して穏やかではありません。このままでは 2 次災害、3 次災害が拡大する気配もあります。いまこそ市民社会の協同と科学や知識の再点検が求められるのではないのでしょうか？

NPO 活動に参加する私たちは、いまあらためて自らの活動も含めて足下からの問い直しをする必要があると思います。

大震災という非常事態にも立ち向かえる、協働・協同のネットワークを創ることが NPO 活動の一つの役割であることを再確認したいと思います。

子どもの最善の利益を保障する NPO 法人が今回の大震災や、原発問題にいかに向き合えるのか、いかに向き合うのか、今総会でもぜひ協議しましょう。

## 2・NPO と「新しい公共」について

21 世紀を迎え、NPO 活動の広がりはその件数でも 1 万以上となり予想以上に拡大してきました。しかしながらそれらの活動は必ずしも順調であるかと言えば決してそうではありません。そこにはビジョンが明確でなく、会員の利益のみを目的化した団体に陥るもの、あるいは経営難に陥り開店休業状況の団体も少なくありません。

NPO は市民社会の個人間をつなぐステークホルダーとして、行政、企業セクターとともに連携し「新しい公共」性を牽引する社会関係資本の重要なセクターを担う役割を使命としています。

したがって NPO 活動の発展は、従来の地縁社会や行政主導の共同体から、新しい市民主体の共同体を創造する原動力となるのです。

市民一人一人が自らの社会の主人公として日常生活と関わり豊かな人生を全うできるような、新しい社会がこれから展望されなければなりません。それは家族をも家族の枠に閉じ込めるのではなく開かれた家族として市民社会との協同の絆を形成するのです。企業や行政機構についても将来的には市民に開かれた組織として機能していくことが目指されています。このような意味でも私たちの協会も組織的に社会にどのように開かれ協同しているのか今一度問い直す必要があります。

### 3・関西子ども文化協会の新段階

昨年度の総会でも提起しましたように、本協会はNPO法人として本年度で11年目を迎え、「新しい段階」に入っているとの問題提起をしました。活動や事業の広がりには以前と比べ数倍に拡充しており、また広報活動の質の高さや、企業・行政からの評価も相当高い者があります。とくにこの間のインファernoの内容については紙面改善だけでなく内容面でも他のNPO団体の広報活動をしのぐ充実したものになり評価を高めています。

本総会では今一度この「新しい段階」のもつストロングス（強みと成果）を会員相互で確認し合うとともに、同時に組織の持つ経営面、あるいは組織面での課題（弱点）についても隠すことなく明らかにし相互に意見交換しなければなりません。

理事会は十全に機能しているのか？会員相互のコミュニケーションはどうか？事務局の協同や同僚関係はどうなのか？財政業務は円滑且つ透明性を堅持し得ているかなどなど、あらゆる角度からの吟味と検討が必要となっています。

このようなりフレクション（内省）をオープンに行えてこそ協会の未来は開かれるのではないのでしょうか？ぜひ総会参加の皆様からは忌憚のないご意見をいただけることを期待しています。

### 4・理事会と事務局のコラボレーション

関西子ども文化協会が「新しい段階」に入り、国もまた「新しい公共支援事業」としてNPOなどの活性化と協働を予算化しました。このことで、私たちは、中間支援組織として「民による新しい公共」を具体化するために市民を巻き込んだ取り組みが必要です。方針2、3で述べましたように、子どもの最善の利益を保障するNPOとして、大震災に向き合い、社会に開かれた組織をはかりながら、「子どもの権利」をどう位置づけ、「権利の保障」と「子ども参画」をどう積極的に推進するのか、これらのことを実現するには、理事会と事務局の協同が必要不可欠です。理事会と事務局のコラボレーションは「共に学ぶ」ことから始めていきたいと思えます。

次年度では、会員、ならびに理事会の一人一人が本格的参加と介入ができるように、活動の透明性と共同性が高められることが今後のキーポイントとなります。

このことを総会ではぜひ議論し確認したいと考えます。